

大豆跡で星空舞を栽培するなら・・・

窒素施肥体系は**基肥無施用**、**穂肥Ⅱ無施用**に！

(背景)

大豆転作跡の作付け要望が強いため、収量・品質・食味を重視した施肥技術を検討しました。

(大豆跡における「星空舞」栽培のポイント)

1. 生育量が大きくなりやすいため、**基肥は施用しない**。
2. **穂肥Ⅰは葉色診断により施肥量を決め、基準通りに実施する**。
3. 食味値が低下する恐れがあるため、**穂肥Ⅱは無施用とする**。

【穂肥Ⅰ基準】

SPAD値35.0以上(葉色板4.0以上) ▶ 無施用、35.0未満(葉色板4.0未満) ▶ 10a当たり窒素2kg施用

- 前作が大豆のほ場では、**基肥：無施用、穂肥Ⅰ：葉色診断に基づいた施用、穂肥Ⅱ：無施用とする**ことで、**目標数値以上の食味・品質・収量を確保できると考えられます。**

収量および食味値の年次変動

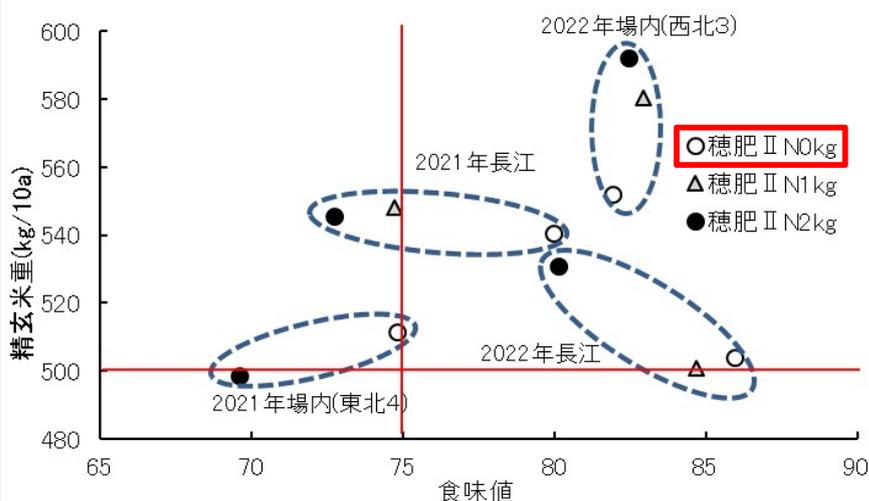


図3 「星空舞」大豆跡ほ場における異なる穂肥Ⅱ窒素施肥量による食味値と精玄米重の年次変動(2021～2022年)

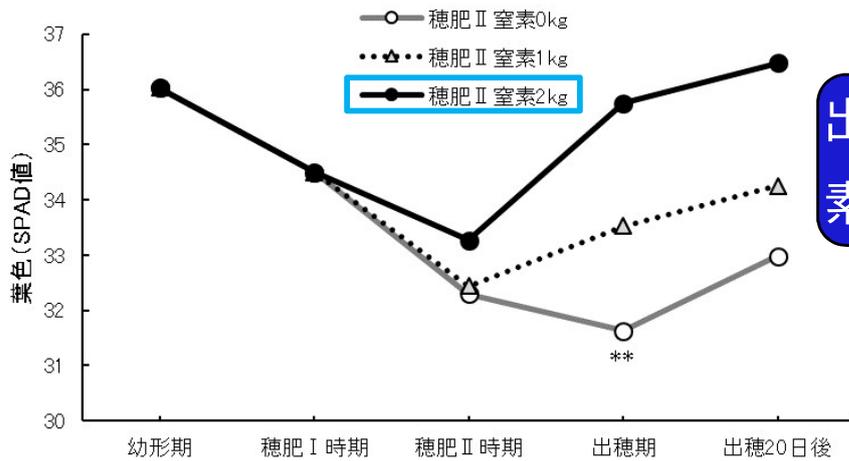
(収量と食味値の関係)

穂肥Ⅱの窒素施肥量が0kg区は、1kg区及び2kg区と比較して、安定した食味値と収量を確保できます。



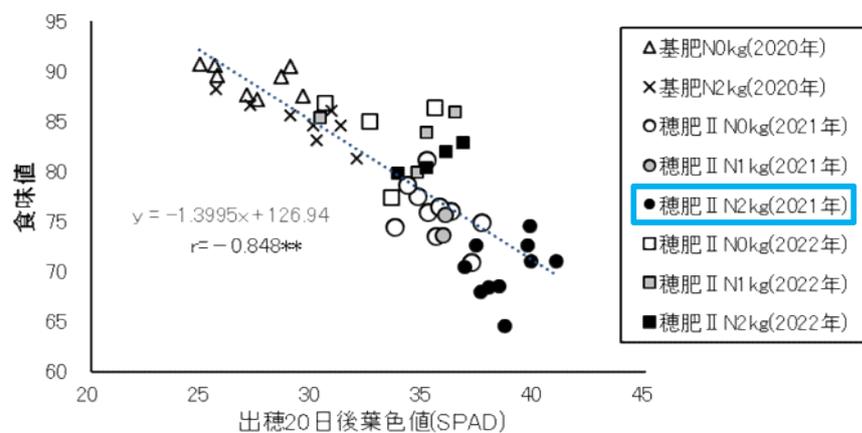
穂肥Ⅱは無施用、穂肥Ⅰは葉色診断に基づき施用

葉色と食味値の関係



出穂期以降の葉色は、穂肥Ⅱの窒素施肥量が多いと高い傾向です。

‘星空舞’大豆跡ほ場における異なる穂肥Ⅱ窒素施肥量による葉色の推移(湯梨浜町長江:2021~2022年)



出穂20日後の葉色と食味値は負の相関関係にあります。穂肥窒素量が多いと食味値は低下傾向にあります。

図2 「星空舞」大豆跡ほ場における出穂20日後の葉色値と食味値の関係(2020,2021,2022年,農業試験場,2021,2022年,湯梨浜町長江)

大豆跡の「星空舞」作付ほ場におけるまとめ

- ◎ 過繁茂、莖数過多、籾数過多になりやすくなります。(リスクを理解し作付してください。)
- ◎ 穂肥Ⅱの施肥窒素量が多いほど葉色は濃く、食味値は低下する傾向があります。
- ▶ 出穂20日後の葉色と食味値には負の相関(後半の葉色が濃いと食味は落ちます。)
- ◎ 穂肥Ⅱ窒素0kgでも収量、品質、食味は目標以上を確保できます。

利用上の留意点

1. 栽植密度は50~60株/坪に設定し、過度な疎植は避ける。
2. 莖数を抑えるため、適期・適度な中干しを実施する。
3. 大豆跡作2年目以降のほ場では、収量性確保のため、慣行施肥基準を基本とする。

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 作物研究室 TEL: 0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい